

(倉吉商工会議所講演)

平成 26 年 11 月 19 日

「地方経済の活性化とは」

——倉吉経済の将来を考えるヒント

(目次)

1. 「地方経済の活性化」が目指すもの
2. 鳥取県の人口減少問題の実情…略 (別途掲載資料をご覧ください)
3. マクロトレンドからみた日本経済の将来像
(参考) 日本の成長産業 } 略 (同上)
4. 倉吉の将来戦略の立案例 (考え方の一例)

(付) 講演資料「フランスから学ぶ企業経営のコツ」の抜粋…略 (同上)

講師：大山陽久・日本銀行鳥取事務所長

昭和 35 年生 (54 歳)、東京都出身

昭和 57 年 東京大学法学部卒 (法律相談所・ホウストラ・リエンテリク'クラブ に所属)

【主要略歴】

国際局外国為替係長・総務係長・調査役、国際金融 G 長、パリ事務所長

大蔵省経済理論研修、調査統計局エコノミスト (アジア、欧米、国内金融財政)

大蔵省財政金融研究所特別研究官、G7・APEC・OECD 会合等に多数参加

営業局大手金融 G、金融機構局経営分析 G 長・業務継続体制整備担当企画役

預金保険機構金融再生部総括次長、総務人事局組織管理担当総括、盛岡事務所長

1. 「地方経済の活性化」の目指すもの

(問題意識)

- ・地域全体の「平均値」を引き上げる施策でも、個々人の立場からみると、プラスになる人とマイナスになる人とが生じる。

——全員がプラスになる変化は、現代ではほとんど期待できない。

- ・長らく続いてデフレ経済の下で、硬直的ながらも安定的であった社会構造に慣れてしまった人々にとって、自分にマイナスとなる施策に対しては、「総論賛成、各論反対」となる。

→ この結果、具体的施策については、百家争鳴となる可能性が大。

- ・こうした事態を避けるためには、地域活性化とは何を指すのか、まずその目標についてコンセンサスを形成してから、具体策を講じるのが有効ではないだろうか。

(「地方経済の活性化」の目標)

(1) 経済規模の最大化?

$$\text{実質 GDP} = (\text{人口}) \times (\text{一人当たり実質総生産})$$

$$\text{GDP 成長率} \doteq (\text{人口増減率}) \times (\text{生産性上昇率})$$

(増減イメージ)	実質 GDP	人 口		生産性
		出生率	社会増減	
大都市圏	○	×	○	◎
地方圏	×	○	××	△

- ・日本全体のGDPを高める → 大都市圏に集中 (従来施策)
- ・日本全体の人口減少に歯止めをかける → 地方分散 (増田レポート)
- ・但し、現状のままでの地方分散は、国全体の生産性低下を引き起こす
→ 地方創生

(2) 生産性の向上？

- ・産業の生産性向上は、どのようにして実現するのか

産業の生産性 = F(社会資本ストック、民間資本ストック)

= F(有形固定資産、無形固定資産)

産業の生産性向上 = F(社会インフラ整備、投資、人材育成等)

- ・社会インフラ整備は、企業全体にとって共通の生産性向上要因。

→ 結果的に、競争力に秀でた県外資本の参入を容易化する可能性も

【理論的整理】 県内産業の生産性上昇と観察されるケース

- ① 県内企業が、有形・無形の投資により、生産性向上を図る方法
- ② 県内企業が、生産性の高い分野に、事業再編・事業転換していく方法
- ③ 生産性の高い事業の新規創業、あるいは競争力の高い県外企業の県内進出
- ④ 生産性が向上せず競争力の低下した県内企業の廃業

—— ミクロで見れば、各企業の生産性上昇 or 低生産性部門の切捨て

—— 県内企業主体か、県外企業主体かで、感覚的には大きな違い

(3) 幸福度を高める？

【今秋の西日本経済同友会でみられた議論】

- ・経済成長が人々の幸福に結びついていない
- ・ブータンのGNH (Gross National Happiness)
- ・日本人の幸福度はなぜ低いのか
 - 日本社会不幸説
勤務時間の長さ、自由選択に乏しい、夢や希望がない
 - 一般的に、ラテン系民族の幸福感は高い (物事を楽観視)
- ・もともと「幸福観」が世界で一元化していない
 - 日本と外人では幸福を感じる時が違う (文化差、人間観?)
- ・「ビジョン」を定める重要性
 - 夢や希望のあるビジョンに向かって着実に実現していく

(参考1) フランスでは、社会の価値観が多分化 (各分野にマエストロ)

- ・各分野ともに職業専門家がプライドをもって仕事している
- ・各分野のトップに対する社会的評価が高い
例えばミシュラン三ツ星レストランのシェフは、
ファーストクラスに乗って、日本等に招かれる！
- ・公私の食事会では、様々な分野における教養の深さが試される
- ・女性就業率の高さ (さらにカフェのギャルソンは男性の仕事)

(参考2) 「希望学」 (東大大学院・玄田教授が創設した学問分野)

- ・希望は「幸福」とは違う： (今は幸せではない)
- ・希望は「夢」とも違う： (夢は受動的に見るもの)
- ・希望とは
「特定の目標を定め、その実現のために、不断に努力すること」

(4) 成功事例から得られるヒント

【若者を惹きつけて、U I ターンに成功している地域・企業】

- ・「人はお金では動かない」
- ・「やりがいをもって自己実現できる場 (仕事) の提供」
結果的には、「やりがい」→「やる気」→「生産性向上」
- ・ITも活用

<人口増加地域・日吉津村の魅力>

- ・コンパクトシティの生活利便性
- ・住環境・就業環境の良さ、生活負担の少なさ
(経済負担の少なさだけで集まってくるのではない)

【理論的整理】

「G (グローバル) の世界」と「L (ローカル) の世界」

— 富山和彦著「なぜローカル経済から日本は甦るのか」

ポイント

- ・GとLは別の世界で、異なるルールやメカニズムが適用
- ・L経済圏の特性は、「**密度の経済性**」が効く不完全競争の世界
- ・L経済圏は、「穏やかな退出による集約化」がポイント
- ・L経済圏企業の最重要指標は、(資本効率性でなく) 労働生産性

(5) そもそも「活性化」とはどういう状態をイメージするのか

(活性化を感じる局面は?)

- ・「振れ幅が拡大」しつつ「上昇・増加」していく局面
 - 「振れ幅拡大」と「上昇増加」のどちらが中心的要素なのか?
 - 「振れ幅拡大」だけでも、活性化と言えるか?
- ・「既存秩序の崩壊 → 新たな均衡」に向かう再調整過程
 - 「勝ち組になろう」との夢・希望を抱いて、活動積極化
 - 結果的に、競争激化、格差拡大となるリスク
 - 物事が動く、気分一新との心理的効果も

【相場参加者の場合】

- ・ディーラー心理： 相場が動けば、儲かる
- ・「ミセスわたなべ」： 右肩上がりなら、誰でも儲かる
(農耕民族である日本人は、本来リスク回避志向と言われている)

(6) まとめ

- ・全国各地がみな同じような問題を抱えて地方活性化に取り組んでいる。
 - 他の大都市と同じ戦略では勝ち目がない。
- ・従って、まずは倉吉の比較優位にある点は何かを見定める必要
 - 東アジア等の新興国と同じ商品を作っても勝ち目がない
 - ブランド品・高付加価値品には、労働集約的なものも多い
(均一化・大量生産 → 価格競争、 あこがれ → 希少価値)
- ・世界あるいは日本全体の中長期的トレンドには、容易には逆らえない
- ・それらを踏まえて中長期的戦略を策定し、その実現に向け不断に実行
 - あらゆる機会を捉えて、その方向性に資源配分を集中
- ・なお、「生産性向上」を前面に掲げず、別の言い方でアプローチ
 - もっとも、成功事例では、結果的には生産性向上が実現
 - 旅館の生産性向上には、マルチタスク化も有効

4. 倉吉の将来戦略の立案例（考え方の一例）

○農業中心の産業振興、グローバル需要の取込み

- ・世界的に供給不足となる農産品の、東アジアへの供給基地。
中華系民族の嗜好への適合、ネットワーク整備→台湾企業の誘致？
- ・農業生産品にも品種改良は不可欠
二十世紀梨の生産量推移グラフは、工業製品の生産量の盛衰に類似

○交流人口の増加策

- ・JR駅と中心市街地とが離れている
→ 15～20分毎の循環バス・シャトルバス運行など
- ・高齢者の受入施設の充実（温泉施設の活用）
介護保険の仕組みを全国負担に変更したうえで、温泉介護施設
関西圏富裕層の高齢施設とすれば、折に触れ家族が訪れる
→ 外食、宿泊に対するリピート需要
- ・三朝・フランス交流を活用できないか？
まずはフランス人への知名度を上げ
→ ミッシュランガイドの活用？

○コンパクトシティ化の徹底

- ・老朽化するインフラを維持することができなくなる
→ それを展望し、事前に「選択と集中」を徹底
→ 資産価値の変動を伴うだけに、説得できるかが課題
- ・人口集中により、生活利便性向上、生産性向上、教育の質向上

○30～40歳代の中堅ベテラン層のU・Iターン促進

- ・若年層の県外流出はやむを得まい（スキル習得には大都市圏が有利）
- ・ある程度のスキルを習得した段階で、U・Iターンを促進できないか

○インターネット、Eコマースの世界

- ・地方所在企業でも、全国・世界に発信できる。

(例) 米国内科学会雑誌の日本語訳版編集長は地方在住

インターネットのサイト店舗は地方所在が多い

- ・但し、それには日本全国に勝る競争力が必要

——比較優位性 (素材、技術等)、ノウハウ、物流

○倉吉へのアクセスの将来展望は？

- ・山陰自動車道から離れた内陸地として、交通手段の将来展望は重要